

ラース・ヘルマンダー(Lars Hormander)氏(ルンド大学名誉教授)が去る 2012 年 11 月 25 日に逝去された。享年 81 歳。専門は偏微分方程式。

擬微分作用素やフーリエ積分作用素など、現代の解析学における主要な概念の基礎付けを行ったことで知られる。初期の業績である「偏微分方程式の一般論に関する研究」で 1962 年にフィールズ賞、2006 年にスティーール賞を受賞している。

邦訳された著書に『多変数複素解析入門』(東京図書)などがある。

小林昭七(こばやし・しょうしち)氏(カリフォルニア大学バークレー校名誉教授)が、去る 8 月 29 日に心臓病のため逝去された。享年 80 歳。専門は、微分幾何学。

著書に、『曲線と曲面の微分幾何』、『接続の微分幾何とゲージ理論』(裳華房)、『ユークリッド幾何から現代幾何へ』(日本評論社)、『複素幾何』(岩波書店)などがある。また、『Foundations of Differential Geometry, I, II』(共著, John Wiley & Sons)にて日本数学会出版賞を受賞した。

小誌では連載「基礎講座 距離の幾何」をはじめ、1960 年代より永きにわたりご執筆いただいた。

ウィリアム・サーストン(William Paul Thurston)氏(コーネル大学教授)が悪性黒色腫のため逝去された。享年 65 歳。専門はトポロジー、幾何学。

3次元多様体、双曲幾何、クライン群、複素力学系、組合せ論など、幅広い分野で重要な業績を遺している。1982 年には、「3次元多様体の分類に関する幾何化予想の提唱」によりフィールズ賞を受賞した。

小誌では、1998 年 12 月号でのインタビュー「W.P.サーストン氏への 5 つの質問」をはじめ、2010 年 6 月号・8 月号でのパリコレクションの話題など、たびたびご登場いただいた。

外村彰(とのむら・あきら)氏(日立製作所フェロー)が去る 5 月 2 日、膵臓癌のため逝去された。享年 70 歳。

一貫して電子線装置の開発と応用研究に従事し、量子力学で理論的に予想されていた現象を電子顕微鏡を使った実験で解明した。

著書に『だれが量子場をみたか』(共著, 日本評論社)、『電子波で見るミクロの世界：科学講演会』(ビデオ, 日本評論社)、『量子力学を見る』(岩波書店)、『目で見る美しい量子力学』(サイエンス社)などがある。

和田秀男(わだ・ひでお)氏(上智大学名誉教授)が 2012 年 1 月 7 日、逝去された。享年 71 歳。

著書に『計算数学』(朝倉書店)、『コンピュータと素因子分解』(遊星社)など、訳書に『素数大全』(朝倉書店)がある。

本誌では「格子の幾何学と部屋割り論法」(1973 年 7 月号)、「素数の判定法」(1984 年 2 月号)、「虚数とは何か／複素数導入試論」(1985 年 10 月号)、「フィボナッチ数列の周期」(1987 年 1 月号)、「整数解と連分数展開」(1989 年 9 月号)、「

「負の面積と負の体積」(2002年2月号)など数多くご執筆いただいたほか、「エレガントな解答をもとむ」でも長きにわたりご出題いただいた。

松坂和夫(まつさか・かずお)氏(一橋大学名誉教授)が2012年1月4日、逝去された。享年84歳。

著書に、『集合・位相入門』, 『数学読本』(いずれも岩波書店)などがある。

本誌では、リレー連載「学校数学」や「エレガントな解答をもとむ」の出題でご登場いた